京城日報
本日朝刊四頁
朝刊
編輯兼發行人 兒島吉治
印刷人 小川三之介
京城府太平通一丁目
發行所 合資會社 京城日報社

本紙一萬號記念懸賞小說二等當選　　映畫化上演禁

春を待つもの（147）

山下ハル子　作
寺本忠雄　畫

春を待ちつゝ（六）

『お解りになつて？』夏絵は微笑しながら座敷へ戻つた。

『姉の、僕の姉の結婚のことでせう？』冬二は喩の色を輝やかせて云つた。

『……』夏絵は擽しさうにうなづいた。

『僕は、すつかり忘れてゐた！』と、眞面目に謝辭する冬二に、夏絵は、

『不可ませんわねえ御本人が忘れたりしては……。私、そのことを此のお正月に貴方から伺つて、毎日々々二月十七日の來るのを待つてましたのに――』

『濟みません。』

『まあ！私に謝つたりして――面白い冬二さん。謝罪にゐらつしやるお兄さんもどんなにお悦びでせうね……。私も今度京城へ行けるやうな折があつたら、第一番に、あの潜介さんのお宅へ行つて、お姉様御夫婦にお逢ひしたいと思つてますわ……。』

冬二も、遠く京城の空に思ひをはせるやうに、目を細めた。

『お母さんも、これで、きつと御安心なすつたに違ひありませんわ、今度は冬二さんの番ねえ？』

『僕の番？』

『えゝ。脩をしつかり勉強なさつて、お母さんや、お兄さんを悦ばせてあげると云ふ……。』

冬二は、顔を赧らめて黙つてゐた。

『それに、此の冬京城の父から來た手紙では、あの潜介さんも、頭道山を投げ出してしまつたと云ふことですね。素人では仲々思ふやうに行かないらしいんです。日本鑛業の方で、あれを買取る話になつて前からの経緯もあるし結局、貴方のお家の方へ参千圓程口本鑛業が仲介に立つて譲上げるやうになつたのですつて。さうして貴方のお母さんは、それを貴方の給の學資になさりたい御希望らしいさうですよ。』

『僕には、未だ僕の心が解らないんです！』

『えゝ？どうして？』

『僕は、そんな金なんかなくても立派にやつて行く自信はあるのです。それよりも、兄や、親父が金を借りた人のことを考へてくれゝばいゝんです！』

夏絵は、一寸胸を刺されるやうな思ひがした。彼女は暫く黙つて考へてゐたが、

『お兄さんと云へば、愛子さんは今京都の方にゐらつしやるのです（つ）てね？』

『えゝ。』

冬二は、とつてつけたやうにいつた。

『お兄さんのことも……。あゝして、お姉さんと潜介さんの結婚を許して下さつた位ですもの、今に、お母さんの御心も解けるものと思ひますわ。お兄さんや、愛子さんの幸福のため、私はそれを祈つてゐます』

夏絵は、終りの方は自分にいつて聞かせるやうな調子でしんみりいつた。

彼女は、相手を幸福にする自信のない自分の戀愛を成長させようといふ意思は、毛頭なかつた。

それは、肉親の嫌さから來る消極的な一種の諦めのやうに見えるかも知れないが、實際は、彼女は自分の片戀の情を甘やかすには、世の中の苦勞といふものを知りすぎてゐたからだつた。

褒やが、足音を忍ばせるやうにして、二三の郵便物を持つて來た。茶色の帯封のかゝつた新聞を何心なく取りあげて開いてみた夏絵は思はず驚きの聲をあげた。さうして、みる／＼袖に濺ぐんり……

……そしまつた。吃驚してゐる冬二に、彼女は、自分の持つてゐた新聞を差出して

『泣いたりして御免なさい！でも思はず……。その新聞に、〃春を待ちつゝ〃つて題で小説が載つてゐるでせう？それは、私の知つてゐる隨分不幸な女が書いた小説なんです。その女の小説が當選したので、私は、その女の心持を考へると、つひ泣いてしまつたのです』

冬二も、何か胸の熱くなるやうな思ひで、作者佐田千夜子と云ふ字を、じつと見詰めてゐた。（終）

二日の番組（金曜日）

JODK

第一放送

自午前五時至六時　南鮮防空演習警報狀況其他（所定放送開始は臨時中斷の上放送す）釜山府南鮮防空演習指導部――釜山龍頭山神社前廣場より中繼（以上釜山ローカル）
午前六時三〇分（東）基礎英語講座（五）　鹽谷　榮
同七時　今日の天氣見込
同七時一分（東）朝の修養　井川　定慶
同七時二〇分（東）ラヂオ體操
同九時　（熊）家庭メモ
同九時一〇分　氣象通報（釜山）
同九時一五分　氣象通報・料理献立（鰻の田樂）
同一〇時三〇分（東）家庭教育講座（四）子供と習慣　山下　俊郎
正午（東）時報、日用品値段、魚市値段
午後零時五分　落語　反對盜人　柳亭　燕路
同零時三〇分（東）國民歌謠
同零時四〇分　ニュース
伴奏　AKアンサンブル
……日本よい國……　獨唱　松島　詩子　同　林　伊佐緒
同一時一五分　衛生講演（朝鮮語）（釜山）眼の病氣と遺傳　羅　元　相
同二時　講演　世相と生活　津田　剛
同三時一〇分（東）放師の時間　新書方手本の編纂趣旨　各務　虎雄
同三時四〇分（東）氣象通報
同四時　ニュース（氣象通報釜山）
同六時（札）兒童劇　憬れのリヤカー　櫻田興一作　札幌中央創成小學校兒童　指揮　小關　肇　伴奏　須藤不二男
同六時二〇分（東）コドモの新聞　關屋五十二
同六時二五分（名）英語講座（五）　岡部　次郎
同六時五五分　カレントトピックス
同七時　ニュース・天氣見込・職業紹介
同七時三〇分（東）座談會　國立公園を語る　出席者　鐵道省國際觀光局長　田　誠　司會　田村　剛　林學博士　菊池　寛　久米　正雄　吉川　英治　吉屋　信子　さとう・ふさ
同八時　京城をどり――京城府民館より中繼（京城）東券番連中　宇野　千代
午後八時（東）獨唱と管絃樂（釜山）
一、三つのイタリー民謠風の歌曲（イ）子守唄（ロ）美しいテレーザ（ハ）葡萄摘み
二、トラッカ人
三、管絃樂組曲『鳥』より（イ）序曲（ロ）うぐひす
四、歌劇『リゴレット』〃慕はしき名〃　獨唱　ベルトラメリ能子　日本放送交響樂團　指揮　山田　耕作
同八時三〇分（東）浪花節（釜山）若き日の廣瀬武夫　梅原　秀
同九時一〇分（札）追分節（釜山）（イ）唄　船木　賢治　尺八　菊池　淡水（ロ）唄　鈴木　晴月　尺八　戸來　……
同九時三〇分（東）時報、ニュース、今月の天氣案内、氣象通報　翌日の番組（地方へのニュース京城）

第二放送

同一〇時　ニュース（朝鮮語釜山）
午後零時五分　古談　李　雲　林
同一時一五分　衛生講演　羅　元　相
同六時　童謠　西檢町童子日學校兒童
同七時三〇分　課外講座　李　德　鳳
同七時三〇分　講演　李　晶　稜
同八時（東）獨唱と管絃樂
同八時三〇分　唱劇調　金　昌　龍

三日のきゝ物

同九時　鬮山戎馬外　崔　貞　子
午前七時一分（京）朝の修養選擇集（三）　井川　定慶
同一〇時三〇分　家庭講座　生花の心得　山下　秀照
同一一時二〇分（東）野球試合實況　東京大學リーグ戰＝明治神宮外苑球場より中繼＝
（野球休止の場合は左記◎印中繼）
◎午後零時五分（大）尺八獨奏
◎同零時三〇分（東）國民歌謠
同一時一〇分（札）陸軍特別大演習實況（第一日）＝演習現地より中繼＝
同二時　野球試合實況　京城實業野球リーグ戰（京電對府廳決勝）＝京城球場より中繼＝（第二放送京城）
同六時　ハーモニカ合奏　京城高工ハーモニカバンド
同六時二五分（札）講演　大演習陪觀に際し所感を述ぶ　陸軍大臣　寺内　壽一
同七時三〇分（東）講演　オリムピックより歸りて　河西　三省
同七時五〇分（東）時事解說　フランス金本位制の退轉　經濟學博士　太田　正孝
同八時一〇分（東）室内樂
同八時三〇分（札）陸軍特別大演習實況（第一日）
同九時（東）義太夫　新義座　竹本南部大夫外

（兒童劇）夕六時　憬れのリヤーカー

出演　札幌中央創成尋常小學校兒童　指揮　小關　肇　伴奏　須藤不二男

第一景　學校歸り

北海道の或る村、明日は天皇陛下がお通りになると云ふので學校歸りの子供達も緊張してゐる。孝行者の山下君は八十九になるお祖母さんにも何とかして拜ましてあげたいものだと友達の陰君に話す

第二景　八百屋の店先

陰君の家は八百屋でした、明日陛下のお通りになる國道に學校は一同揃つて奉迎申上げるのでお辨當の材料買ひの子供達で……

第三景　奉迎の當日

いよ／＼奉迎の朝です、空は晴よく後藤に晴れ渡つて清々しい日の丸の旗がヒラ／＼と朝風に靡いて居ります、村中緊張其ものです

店は大賑ひ、村でも皆出て奉迎申上げるのでお店は休み、陰君の頭にはさつき學校歸りに話した山下君のお祖母さんのことがピンと來ました

第四景　奉迎の場所

生れて初めて拜することの出來る悦びに定められた奉迎の場所では小國民達は色々お行列の莊嚴さを想像して小さい胸を高鳴らしてみますが校長の秋山校長外一人がま……

講演　世相と生活（後二時）

津田　剛

◇――この頃は段々世相が激しくなつて行く樣です。近頃の色々な事件を見ても、スペインでは同胞がお互ひに血を血で洗ふ革命があり、支那では排日騷ぎをやつて居ます。眞に目を欺い所に向けて見れば、生活難とか家庭に於ける新舊思想の對立等、色々の問題が山積して激しい世相を彩つて居ます

何故こんなに世相が險しくなつて行くのでせうか。それはみんなの生活が亂れて居るからです。世相と言ふものは、生活の反映です。世相ばかりを敷かずに、もう一つ深い生活の本義と云ふものを考へて見ませう

◇――此頃の人の生活は非常にマチ／＼で、みんなが勝手な事を考へて居る樣です。生活の統一がなく、チグハグなのです。私はその生活と言ふ事に就て感想を申上げたいと思ひます

新書方手本の編纂趣旨

（後三時十分）　放師の時間

各務虎雄

本年十月から實施せられることになつた小學書方手本第四學年……

……しかし同情心があるのか男の云ふ通り金を與へる、男は何も甘へ少しづゝ遂に泥棒から二、三十圓受取る、結局泥棒は一物も取り得ずガツ／＼口叱言を言ひながら安全な道を教はつて出て行く

◇……その後に立派な腰さげの滑草入がある、男は『あゝ今の泥棒が落して行つたのだ、さうだ』と追つて行く、『オーイ泥棒々々』泥棒は『此の野郎ッ恩知らず奴ッ、恩人を何だつて泥棒なんて怒鳴りやがる』『でもお前の名めえが判らねえから』よ』

當代一流　爭霸血戰譜（19）

先　八段　寺田梅吉
後　八段　坂口允彦

第二局

先手二八飛の新手法

双龍子

從來は先手二六飛の將棋を常套手段としてゐたが、この陣形は時の勢ひで攻勢に流れ易く、その結果近頃のやうに研究が積まれてる際にはや、危險の嫌ひがある

講評

八段　金易二郎

席上揷話